

私のカルテ

バセドウ病

No 325

はじめに

バセドウ病について皆さん、どのくらい存知でしょつか。名前は聞いたことはあるがよく知らないという方が多いかと思われます。田中角栄、夏田雅子、ジョージHWブッシュ、絶番といった著名人がこの病気を患つてしたと聞くと身近に感じていただけるでしょつか。

目が飛び出る、首の前の部分が腫れてもう外見的特徴の他、心臓が大きい、などの外見的特徴の他、心臓が大きくなり、汗をよくかく、体重が減るといった症状が出ます。高齢者では無気力、倦怠感などわからにくい症状しか出現しない場合もあり長期間見逃されている場合もあります。直ちに命にかかる病気ではありませんが、放置すると心不全、心房細動をきたして入院が必要となる場合もありますし、甲状腺クリーゼといつ危険な状態を招くこともあります。

今回はバセドウ病について少しでも理解が深まるようじつ説明いたします。

バセドウ病とは

まず「甲状腺」は首の喉仮のすぐ下にある蝶のような形の10グラム程度の小さい臓器です。甲状腺から作られるホルモンは2つあり、サイロキシン(T4)とトリヨードサイロシン(T3)です。どちらも材料としてヨードが必要です。さらに脳の下垂体といつ部分からは甲状腺刺激ホルモン(TSH)が出て甲状腺の働きを調節しています。何らかの原因により体のどこかで甲状腺を刺激する偽の信号(自己抗体が出て、これら

のホルモンが持続的に作られ過剰な状態が続くのがバセドウ病です。

これに対して亜急性甲状腺炎や無痛性甲状腺炎のように炎症によって甲状腺が破壊され、甲状腺内に蓄えられているホルモンが血液に漏れ出て高くなる病氣があり、バセドウ病と間違われる場合があります。

バセドウ病は幼児から老人までかかりますが20から40歳代に多い傾向があります。また女性に多い傾向があります。

最初に一部記述しましたが、症状としては体重減少、心臓がドキドキする、息切れ、だるい、いりづらする、食欲が増え、暑がりになった、汗をかきやすい、といったものがあります。身体の特徴としては眼が大きくなる、まぶたがはればつたくなる、首の前の部分が腫れる、などがあります。病院に来ていただくと採血して甲状腺ホルモン、甲状腺に対する自己抗体を測定し、甲状腺超音波、ま

れには放射性ヨード摂取率測定といった検査を組み合わせて診断します。

最後に

バセドウ病は早期発見、早期治療が大事です。怪しげと思ったら病院を受

診しましょう。いつたん治療が始まつたらきちんと定期的に通院しましょう。

バセドウ病の患者さんはヨード摂取量にはさほど気を使う必要はないですが、ヨードが不足しても過剰になつて甲状腺機能低下症が起りますが、ホルモンが多い状態の時にはさほど影



津島市民病院
内分泌科主任医長
小澤 由治

